

アベノミクスへの視座 —見えてきた結末—

日本総合研究所理事長、多摩大学学長
寺島実郎

- *株は外国人買いで上がっている
- *川上インフレ、川下デフレ
- *様変わりした分配の構造
- *元氣喪失の資産家、増える低所得層
- *ビジョン計画と実行計画の違い
- *「日本のイスラエル化」という見方
- *安倍世界観と相容れないオバマ米国
- *米中関係に冷静な認識が必要
- *主権回復60周年記念式典の意味とは
- *影響力最大化が米国のアジア戦略



浅野 それでは開会いたします。（拍手）

本日はおなじみ寺島さんにおいていただきましたが、去年も同じく5月に、それからその前の年は大地震の直後4月1日に来ていただいています。今日も株価の乱高下の直後なのでタイミングがいいわけですが、レジュメの最初についている3枚は本当はなかったものです。今朝になってこれを足したいとおっしゃって、担当はてんでこ舞いでしたけれども皆さんには喜んでいただけるはずです。

資料集を去年、一昨年と同様にお配りしていますが、これだけでも今日、来られた価値はあると思います。これは買うとなると大変です。後ろに「寺島実郎戦略経営塾」とありますけれども、これがたいへんな人気で、中小企業の経

営者が多いそうですが、皆さんもぜひ参加されるとよいかと思います。それでは今日も楽しみにお聞きしたいと思います。よろしくお願います。（拍手）

寺島 寺島でございます。何やら定点観測のようにこのシーズンに現れていますけれども、今月初めちょうどアメリカの東海岸を回って、いろいろな人と議論してきたところで、その報告を頭の中に置きながら、皆さんが時代認識を深めるうえで役に立つ話が少しでもできればと思います。

考えてみますと今、空気が激変して、日本を覆っているのは、一つは株が上がってめでたいという「ええじゃないか症候群」、もう一つは「プチ・ナシヨナリズム症候群」というようなも